

2022年度 全学教務委員会（教務部）（結果）

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定, 実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異, 実践した行動の評価・分析を行う。	評価	A:課題や問題点についての改善, 対策を行い, 次への「PLAN」へ繋げる。
<p>①ベンチマーク結果などを基にした教育改善 全学生数に占める退学者の割合は, 過去2年間と同様に4%以内を目標とする。学年ごとに見た退学者の目標値(過去3年間の実績から算出)は, 1年生:3.3%, 2年生:4.8%, 3年生:2.5%, 4年生:3.0%以下である。一部を除いて退学者の割合が下がっているため, より低値となるように学生対応を行う。退学者の割合が特に高い保健医療技術学部の1年生においては, 学科ごとの対策を検討するよう要請する。 学修状況調査は継続して実施し, その分析内容を教育改善に活かす。なお, 学修状況調査の回収率は, 2021年度を目安として60%以上とする。そのためにも, 実施方法の検討・改善を学部の教務委員会を中心に展開する。</p>	<p>教務部(全学教務委員会)におけるKPIである退学者率と授業満足度を学部・学年ごとに調査し, 教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行う。また分析結果を, 教務部として共有し, 次年度の教育改善に活かす。</p>	<p>学修状況調査の回答率:外国語学部:43.60% 経営学部:40.20% 人間学部:69.40% 保健医療技術学部:49.10%</p> <p>授業満足度(授業): 外国語学部:78.3% 経営学部:60.8% 人間学部:80.7% 保健医療技術学部:82.4%</p> <p>授業満足度(学修環境): 外国語学部:71.0% 経営学部:53.6% 人間学部:78.0% 保健医療技術学部:78.5%</p>	<p>全学生数に占める退学者の割合は3.7%であり, 昨年度の3.0%。一昨年度の3.2%に比較して増加した。学修状況調査の結果を前年度と比較してみると, 1年生:3.4%→5.6%, 2年生:3.7%→4.2%, 3年生:1.9%→1.7%, 4年生:2.8%→3.2%であった。今年度は特に1, 2年生が高い値であった。 学修状況調査の回答率は当初目標に掲げた60%に達したのは人間学学部のみであった。他の3学部はいずれも50%を下回る回収率となった。授業満足度は, 経営学部が約60%, 他の3学部は約80%であった。学修環境満足度は, 経営学部が約50%, 外国語学部が70%, 人間学部, 保健医療技術学部が80%弱の結果であった。しかしいずれも学修状況調査の回答率が低いことから教育内容の改善のみならず回答率の向上を目指す必要がある。</p>	<p>学部教務委員会議事録, 学修状況調査</p>	<p>学部・学科の特性に合わせ個人面談, 初年次教育, ゼミ活動などの少人数での学生との関わりを促進する。学生の学修状況について種々のアセスメント結果に基づき把握し個別対応を行う。対面授業を基本とするがTeams等のオンラインツールを活用し, 授業改善, 学生とのコミュニケーションに努める。学修状況調査の回答率向上に向けて, 学部学科教員からの協力を強化する。学修状況調査実施後には, 教学IR委員会への分析依頼を速やかに行う(データを集約した教職員から直接, 分析担当者に送信する)。</p>
<p>②学修ポートフォリオの実施・分析 全学教務委員会での報告からすると, 実施率が低い学部・学科も散見される。学修ポートフォリオに関する意識向上を, 学生・教員に対してはたらきかける(学部単位で)。</p>	<p>DPの到達度を確保する目的で実施する学修ポートフォリオは, 学生の自己評価, 教員からのフィードバックともに100%を目標に, はたらきかける。</p>	<p>学修ポートフォリオの実施率は以下の通り。 外国語学部:57.1%, 経営学部:1年生:41.6%, 2年生:4.9%, 3年生:1.2%, 4年生:1.2% 人間学部実施率:2年生:66.9%, 3年生:52.5%, 4年生:51.4% 保健医療技術学部 理学療法学科: 作業療法学科:100% 臨床検査学科: 61.3% 看護学科:99.2%</p>	<p>学修ポートフォリオを用いてDP到達度チェックを全学にて取組んでいる。外国語学部, 人間学部, 保健医療技術学部ではTeamsを用いて実施した。学部学科により, 実施率のばらつきが見られた。経営学部では, 特に2年次以降で低値であった。他の3学部は, 50%を超える実施率であり, 保健医療技術学部理学療法, 作業療法, 看護学科はほぼ100%であった。</p>	<p>全学教務委員会議事録</p>	<p>実施率の低い学部・学科での要因を検討し対策を講じる。各学部学部長, 教務委員会を通じて実施率向上の協力を依頼する。</p>

2023年度 全学教務委員会（教務部）

PLAN(計画)
P:目標を策定, 実現するための具体的な方法を考える。
<p>①ベンチマーク結果などを基にした教育改善 全学生数に占める退学者の割合は, 4%以内を目標とする。学年ごとに見た退学者の目標値(過去3年間の平均算出)は, 1年生:3.8%, 2年生:4.2%, 3年生:1.9%, 4年生:3.3%以下である。 学修状況調査は継続して実施し, その分析内容を教育改善に活かす。なお, 学修状況調査の回収率は, 2022年度を目安として60%以上とし, 実施方法の検討・改善を学部の教務委員会を中心に展開する。</p>
<p>②学修ポートフォリオの実施・分析 学修ポートフォリオに関する意識向上を, 学生・教員に対してはたらきかける。</p>

2022年度 全学教務委員会（教務部）（結果）

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定, 実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異, 実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/根拠データ等	A:課題や問題点についての改善, 対策を行い, 次への「PLAN」へ繋げる。
			評価		
③PROGテストの実施・分析 継続して実施し, その分析内容を教育改善に活かす。	PROGテストを1年生と3年生を対象に 対面で実施し, 教学IR委員会の協 力を得てデータの分析を行う。また結 果については, 学部ごとに活用方法を 検討する。また, PROGテストを継続 して実施するかについても, 検討す る。	PROGの実施率 は以下の通り。 外国語学部:1年 生:85.1%, 3年 生:88.9% 経営学部:1年生 87.5%, 3年生 81.6% 人間学部:1年 生:90.6%, 3年 生:89.7%, 保健医療技術学 部:1年生 97.1%, 3年生 96.7%	1, 3年生を対象にPROGテストを実 施した。回答率は全学部とも80%を 超える実施率であった。結果は, 教学 IR委員会に依頼して分析を行い, 各 学部で教育改善の検討を行った。	全学教務委員会 議事録	回答率向上のため, 対面での実施を基本とする。実施後 には, 教学IR委員会への分析依頼を速やかに行う。
④基礎学力テストの実施・分析 継続して実施し, その分析内容を教育改善に活かす。	基礎学力テストを, 入学後早期に実施 する。その結果については, 学部・学 科ごとに活用する。	基礎学力テストの 結果は以下の通り である。 外国語学部: SPI:94.0%, TOEIC:88.0% 経営学部: SPI:94.51%, 英 語運用能力評価 協会英語アレイ メントテス ト:97.52% 人間学部:JCCオ ンライン 基礎学力判定テ スト(3科目) コミュニケーション 社会学科:95.5% 児童発達学科: 99.1% 人間福祉学科: 95.3% 心理学科:92.6% 保健医療技術学 部: JCCオンライン基 礎学力判定テ スト(3科目) 理学療法学 科:100% 作業療法学科: 100% 臨床検査学科: 92.2% 看護学科:84.3%	各学部が選定した基礎学力テストを, オンラインあるいは対面で実施した。 いずれも高い回答率であり, 学修指 導の基礎データとして活用している。 具体的な活用方法, 経年的な分析結 果は, 当委員会で報告があった。	全学教務委員会 議事録	実施率維持を継続する。実施結果は活用可能な授業, 学修促進に利用する。成績の低い学生には, 個別支援を 検討する。
⑤公開授業実施 運営方法・内容などの検討を学部ごとに行い, 全学教務 委員会にて情報交換を行う。また, アンケート結果につ いては当委員会で共有し, 教育改善に反映させる。	学部ごとに公開授業を実施する。アン ケート結果は教務部で共有し, 次年度 の教育改善に活かす。	11月5日(土) 外国語学部:対 面:16名 経営学部:対面: 26名 人間学部:対面: 31名 2022年11月7 日(月)~11日 (金) 保健医療技術学 部:対面:29名 (ふじみ野:14 名, 本郷:15名)	全学部とも対面形式の公開授業を行 なった。外国語, 経営, 人間学部は1 日, 保健医療技術学部は1週間を設 定した。参加人数は外国語学部で16 名, 他3学部は30名程度であった。ア ンケートは概ね肯定的であった。	出席者アンケ ット結果	参加率向上を目指し, 学部ごとに実施方法を検討する。 参加者からのアンケート結果を基に教育改善に反映させ る。

2023年度 全学教務委員会（教務部）

PLAN(計画)
P:目標を策定, 実現するための具体的な方法を考える。
③外部評価アセスメント(GPS-Academic, PROGテ スト)の実施・分析を継続実施し, その分析内容を教育 改善に活かす。
④基礎学力テストの実施・分析 継続して実施し, その分析内容を教育改善に活かす。
⑤公開授業実施 学部ごとに運営方法・内容などの検討を行い, 全学教務 委員会にて情報交換を行う。アンケート結果は当委員 会で共有し, 教育改善に反映させる。

2022年度 全学教務委員会（教務部）（結果）

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定, 実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況 (実施率)	C:目標とその実践の差異, 実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/ 根拠データ等	A:課題や問題点についての改善, 対策を行い, 次への「PLAN」へ繋げる。
⑥「国際化に対応した地球市民の育成」, 「永久サポート大学」実現に向けた対応 各学部・学科で, カリキュラム改編, 卒業生に対するリカレント教育体制の検討を行う(教務委員会を中心に)。在校時に学修した専門領域に限らず, 幅広い教養を修得するためのサポート体制を検討する(オンデマンド講座も含めて)。	各学部・学科で, カリキュラム改編, 卒業生に対するリカレント教育体制の検討を, 学部教務委員会を中心に行う。また, 研究推進作業部会と連携した共同研究の可能性について, 検討を行う(卒業生の就職先や実習先など)。		各学部における「国際化に対応した地球市民の育成」, 「永久サポート大学」実現に向けた対応を報告確認した。卒業生を対象としたリカレント教育の取り組みについて確認したが一部での実施に留まっている。データサイエンス入門を全学必修化した。	全学教務委員会 議事録 4学部履修要綱	全学教養教育委員会, DX推進センターと連携しデータサイエンス科目群の実施運用を継続的に検討する。リカレント教育の実施方法について検討する。

2023年度 全学教務委員会（教務部）

PLAN(計画)
P:目標を策定, 実現するための具体的な方法を考える。
⑥「国際化に対応した地球市民の育成」, 「永久サポート大学」実現に向けた対応 各学部・学科で, カリキュラム改編ならびに全学教養教育委員会, DX推進センターと連携し本学における教養教育・共通科目, データサイエンス科目群の内容・実施方法を検討する。リカレント教育の実施方法について検討する。クォーター制, 100分授業の運用について検討する。